

タマネギべと病の防除を徹底してください

3月12日の病害虫防除所の巡回調査によると、タマネギべと病の発生圃場率は54.5%で、4月上旬の平年値(27.4%)よりすでに高くなっています。春先の強力な伝染源である全身感染株(図1)の発生に加え、一部圃場では全身感染株周辺への感染拡大が認められています。本年は、12月中旬から3月上旬にかけて気温が平年より高く、2月中旬から3月上旬にかけて降水量が多い傾向で、本病の発生に好適な気象条件となったため、発生が早まったと考えられます。さらに、3月19日発表の広島地方気象台の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後の発生拡大が平年より一層早まることが懸念されます。

圃場をよく観察し、全身感染症状の株は見つけ次第抜き取り処分を徹底するとともに、予防的な薬剤散布に努めてください。

(防除上の参考事項)

- (1) 前年のタマネギべと病の発生が平年より多く、越冬伝染原量が平年より多かったと考えられる。
- (2) 秋冬期にべと病に感染した株は大部分が無病徴のまま越冬し、暖かくなるにつれて発病して全身感染症状(図1)を呈し、春先の強力な伝染源となる。
- (3) 本病は、気温15℃前後(4月～5月上旬)で、雨が多いと二次伝染が盛んに起こり多発生しやすくなる。
- (4) 本病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成(図1、2)し、これが風雨で飛散し、二次伝染源となって、急速な蔓延の原因となる。分生胞子の飛散範囲は広いため、地域一体となった防除が必要である。
- (5) 発病後の薬剤散布では防除効果が劣るため、予防散布が望ましい。発病を確認した圃場では特に葉によく付着するように薬剤散布を行う。雨天等の天候や薬剤の残効性を考慮しながら、7～10日間隔の防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける(表1参照)。
- (6) 農薬の使用に当たっては、収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策を行う。
- (7) タマネギのべと病菌は**ネギやワケギにも感染**し、二次伝染源となる。



図1 春先の全身感染株



図2 二次感染株(初期病徴)

表1 タマネギべと病の主な防除薬剤

令和2年3月現在

薬剤名	希釈倍数	使用基準		成分名 ^{注2)}		殺菌剤コード ^{注1)}	
		時期	回数	成分1	成分2	成分1	成分2
ヨネポン水和剤	500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフェノールスルホン酸銅	—		
Zボルドー	500倍	— ^{注3)}	—	塩基性硫酸銅	—	M1	—
クブシールド	1,000～2,000倍	—	—	塩基性硫酸銅	—		
ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	—	M3	—
ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN	—	M5	—
フロンサイド水和剤 フロンサイドSC	1,000～2,000倍	収穫7日前まで 収穫3日前まで	5回以内	フルアジナム	—	29	—
リドミルゴールドMZ	500～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	マンゼブ	4	M3
フォリオゴールド	800～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシルM	TPN		M5
ベジセイバー	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	ペンチオピラド	TPN	7	M5
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日まで	4回以内	アゾキシストロビン	—		—
アミスターオブティフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン	TPN	11	M5
シグナムWDG	1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	ピラクロストロビン	ボスカリド		7
メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピコキシストロビン	—		—
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	—	21	—
ドーシャスフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド	TPN		M5
ホライズンドライフロアブル	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	ファモキサドン		11
ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	アミスルブロム		21
ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	ベンチアバリカル イソプロピル	27	40
ブリザード水和剤	1,200倍	収穫7日前まで	3回以内	シモキサニル	TPN		M5
カーゼートPZ水和剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル	マンゼブ		M3
フェスティバルM水和剤	750～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	マンゼブ		M3
フェスティバルC水和剤	600～800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	銅		M1
ザンプロDMフロアブル	1,500～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ	アメトクトラジン		45
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	TPN	40	M5
カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	750～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	マンゼブ		M3
ジャストフィットフロアブル	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	フルオピコリド		43
レーバスフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロバミド	—		—
オロンディスウルトラSC	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	マンジプロバミド	オキサチアピプロリン		49
ピシロックフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	ピカルブトラゾクス	—	U17	—

注1) 殺菌剤コード：FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会 <http://www.jfrac.com/>）による農薬有効成分の作用機構の分類。

同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

注2) 混合剤については、各成分の総使用回数に注意して散布する。

注3) 使用基準欄の「-」は、登録制限無しを示す。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。